

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 菅生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

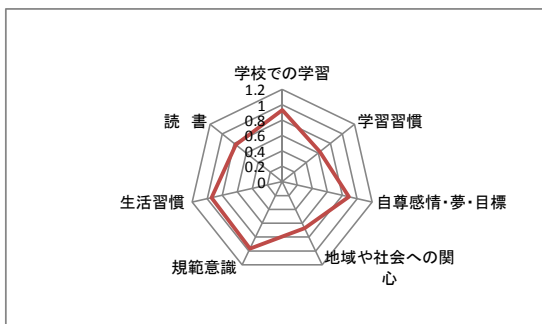
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的に下回っているものの、書く能力は全国平均に近い。無回答率も低く、努力して、問題を解こうとする意欲が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	一文を書き加える際に参考にした助言として適切なものを選択したり、結論にたどり着いた理由として適切なものを選択する問題は、全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	楷書と行書の違いや、事象や行為などを表す多様な語句について理解する問題の正答率が低い。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率より下回っており、特に言語についての知識・理解・技能について正答率の差が大きい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	太宰治と他の作家との関係を書き直したのとして適切なものを選択する問題の正答率が全国平均よりも高い。	
	努力が必要な問題	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題の正答率が他の問題より低く、無回答率も高い。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率より下回っており、特に図形分野を苦手としている。しかし、無回答率は全国平均と比べ、かなり低く、何とか問題を解こうと努力している姿が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	四則の混じった問題を、計算のきまりにしたがって計算する問題や立方体の見取り図を読み取り、2つの線分の関係について正しい記述を選ぶ問題は、全国平均より上回っていた。	
	努力が必要な問題	扇形の弧の長さを求める問題や円柱の体積を求める問題の、正答率が低い。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	多くの項目が全国平均正答率より低く、特に数学的な表現を用いて説明したり、ある事柄が成り立つことを説明する問題が苦手である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図形の移動に着目して観察し、対称性を的確に捉える問題は正答率が全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する問題や事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明する問題の正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善や補充学習の成果として「授業の中でめあてやまとめが示されている」「先生は、授業中やテストで間違えたところや理解していないところをわかるまで教えてくれる。」という質問に対しての肯定的回答が全国平均より上回っている。 ・家庭での学習習慣については、学校の授業時間以外に、1時間以上勉強している生徒が3割程度、全くしていない生徒が3割いる。家庭学習の習慣が身につけていない傾向がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ①補充学習…月二回程度、一週間の朝自習内容を週末に確認テストを行い、未定着生徒へ補充学習を実施する。 ②授業研究・参観授業…学力向上＝授業力向上と捉え、授業改善シートを活用した授業研究を年3回以上実施し、全教員が授業力の向上に努める。また、日頃より互いの授業を参観し合い、授業改善に取り組む。 ③数学科授業…授業の始まり10分間を利用して、生徒個々人の不得手の単元を中心に、課題別学習をする。 ④反復学習…定期テスト前に「これだけではできるようになるうテスト(通称これテス)」を実施し、課題ができるまで繰り返し挑戦させ、基礎学力の定着を図る。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ①菅生ノート…自学自習ノートに取り組みせ、優れたノートを掲示するなどして、ノートの取り方を工夫させる。 ②「マナビバ」の設置…職員室前廊下に学習スペース「マナビバ(学び場)」を設け、自学学習の場として活用する。 ③質問教室…家庭学習につなげるための手立てとして、考査前期間等に放課後の教室で質問教室を行う。 ④計画学習…定期テスト前の学習計画表の作成と、計画表に沿った自学学習ができるよう指導する。 ⑤考査予想問題…定期テスト前に学習委員が作成した予想問題を、家庭での復習プリントに活用させる。 ⑥家庭学習啓発…家庭学習についてのアンケートを実施して結果の分析を行い、啓発通信を配布する。
